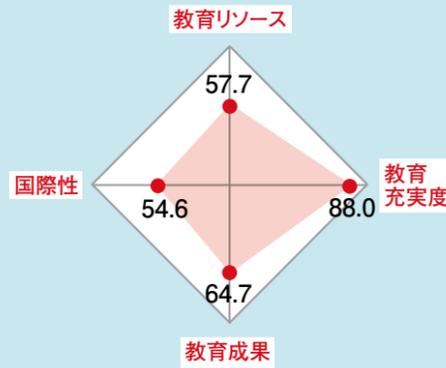




学生数/5653人 学部/工、情報工
大学院/工学、情報工学、生命体工学
●THE世界大学ランキング2018/801-1000位
●同アジア大学ランキング2018/251-300位
●同世界大学ランキング日本版2017/=28位

THE世界大学ランキング日本版2018の結果

分野	スコア	順位	その他指標
総合	66.3	24位	外国人学生比率/4.6%
教育リソース	57.7	=67位	日本人学生の留学比率/9.0%
教育充実度	88.0	36位	外国語で行われている講座の比率/2.2%
教育成果	64.7	29位	海外の大学との大学間交流協定数/98件
国際性	54.6	70位	



取り組み体制

- ▶ 学長企画室に評価担当を置き、データの分析および、執行部、広報、入試等各部署への情報共有を行う
- ▶ データの入力は評価担当、IR担当が行う

分野	重点度	取り組み	指標
教育リソース		▶ 海外大学との共同研究を支援する国際ジョイントリサーチプログラムを2016年度に開始。研究の活発化により良質な論文を増やす ▶ 2015年度に企業との共同研究講座を設置。企業から資金提供を受けるとともに研究者を大学に受け入れ、教員と共同研究を行う	▶ 共同研究および受託研究の受け入れ額(教員一人あたり)を20%程度増 ▶ 国際共著論文数10%程度増
教育充実度	◎	▶ グローバル・エンジニアに必要な力として「GCE」を定め、育成 ▶ 課外活動「学生プロジェクト」を支援。主体的に課題を発見・解決する力を育成 ▶ 全学部・学科でJABEE認定を獲得し技術者教育の質保証を行う	▶ 大学院進学者のうち、グローバル・エンジニア養成コース受講者60%以上 ▶ 高次のアクティブ・ラーニング科目20科目程度
教育成果		▶ 産学連携教育審議会を設置。委員である大手企業の人事担当や取締役から、社会で求められる人材について情報収集 ▶ 世界トップレベルの研究実績を生み出す可能性のある6つの研究分野を重点プロジェクトに集約し、その研究成果を教育力に還元	▶ 産業界との協働による教育プログラムを5つ以上開設
国際性	◎	▶ マレーシアアトラ大学と共同で海外教育研究拠点を設置。そこを起点に海外インターンシップ受け入れ先企業の開拓や海外の大学との連携強化を推進 ▶ ダブルディグリープログラムやエラスムス・プラス*3を活用した、留学生の受け入れ、送り出し	▶ 海外学位取得者・外国出身者・海外教育研究経験者比率20% ▶ 海外インターンシップ等参加学生数の大学院修了者数に占める割合80%以上

注目!

6年一貫の教育プログラムによりさらに多様なグローバル経験を

九州工業大学では学部学生の約6割が大学院に進学することから、2012年度入学生を対象に、6年一貫(学部4年+大学院2年)の教育プログラム「グローバル・エンジニア養成コース」を新設。当初から6年を一括りとする事で、より体系的でシームレスな学びが実現でき、高度なGCE(右図)の獲得につながると期待されている。
英語能力試験のスコアがコース修了の要件で、海外留学を含めた国際協働演習は必修。海外派遣プログラムは、異文化理解の海外留学といった学部低学年向けのものから、海外インターンシップや海外研究室への中長期留学など、より実践的なものまで準備されている。

GCE (Global Competency for Engineer)



*3 EU域内留学を支援する資金助成プログラム。

時代の要請に応え新たな教育を提供
グローバルに活躍する技術者を養成
九州工業大学

異文化交流や汎用的スキルを重視した工学教育が企業、高校教員から評価されている九州工業大学。「教育充実度」や「教育成果」の向上につながっている。



学長 尾家祐二

おいえゆうじ ●1978年京都大学工学部数理工学専攻卒業。1987年同大学大学院にて工学博士号取得。日本電装(現・デンソー)、佐世保工業高等専門学校電気工学科助教授などを経て、九州工業大学へ。情報工学研究センター長、理事、副学長などを歴任し、2016年4月より現職。専門は情報ネットワーク工学。

取材・文/児山雄介 撮影/福山哲

留学生数が5年で5倍
グローバル化を急展開

今回の日本版ランキングでは、4分野ともスコアが上昇しました。本学の教育活動が前進し、高校教員や企業からも評価された結果として、うれしく受け止めています。よい評価を教職員全員で共有すれば士気が高まります。逆に、悪い評価は、社会的関心と本学の活動との間に開きが生じていると受け止め、対処をしています。

本学は1909年に開学した技術者養成を旨とする明治専門学校を前身とし、各時代において、どのような技術者が活躍できるのかを考え、教育のあり方を変えてきました。現在は、専門性に加えて、グローバル化への対応が不可欠です。そこで協働性、受容力、発言力といったグローバルに活躍する技術者に求められるコンピテン

シー(GCE: Global Competency for Engineer 左ページ図参照)を養成する教育パッケージの開発と推進に取り組んでいます。

GCEの教育活動には、「海外学習体験(Study abroad)」「海外就業体験(Work abroad)」「グローバル教養教育」「語学教育」「留学生との協働学習」の5つがあります。このうち「海外学習体験」については、615人の学生が2017年度には参加。2012年度と比べると5倍以上の数です。

一方、「海外就業体験」には年間30人程度が参加しています。こうした海外への学生の派遣では、マレーシアにある海外教育研究拠点(*1MSSC)を有効活用しています。これは2013年にマレーシアアトラ大学と共同で設置したもので、国立大学では本学が初の試みです。海外学生派遣プログラムの学習拠点や、インターン

シップの受け入れ先企業の開拓拠点として利用しています。

また、「留学生との協働学習」の一つに、衛星開発プロジェクトがあります。これは日本、ガーナ、モンゴル、バングラデシュ、ナイジェリアで各国1基、全5基の超小型人工衛星を共同開発する国際プロジェクトです。本学大学院宇宙工学国際コースに在籍する各国の学生が中心となり、教員のサポートを受けながら開発に取り組みました。この活動は、「*2GEDCエアバス・ダイバーシティ・アワード2017」を受賞することができました。エンジニアの国際的多様性が増すことへの本学の貢献が認められての受賞でしょう。

地域で確立した評価を国内外に広めるために

こうしたグローバル化への対応

は、「教育充実度」の「グローバル人材育成の重視」や「国際性」のスコアに寄与したと考えられます。

その他に、学生の自主的な課外活動を支援する「学生プロジェクト」も、GCEの養成に大きく貢献しています。学生がチームを作り、ものづくりの企画を提案。審査通過チームに最大200万円の資金を提供しており、ロボカップ2017世界大会優勝など数多くの実績があります。

本学の取り組みや教育・研究に対する姿勢は、九州、西日本では認知されていますが、日本全国、世界となると、まだまだ不十分です。研究や教育のよさを示す客観的な指標としてランキング結果も活用しながら、入試説明会、高校訪問、海外での留学説明会などを通して、積極的に認知の拡大に取り組んでいきます。

*1 Malaysia Super Satellite Campusの略。
*2 Global Engineering Deans Councilの略。エンジニアリング教育の大手国際組織。